

寒冷地形談話会通信

91年第3号 91/09/25発行

事務局／〒192-03 東京都八王子市南大沢 1-1
東京都立大・理・地理院生室 0426-77-1111 (内3836)

1. 91年度夏の学校の報告

今年度の「夏の学校（サマースクール）」が8月8～9日、木曾駒ヶ岳とその周辺で開催されました。さいわい天候にも恵まれ、充実した2日間となりました。案内をお引受け下さった中新田育子、青木賢人および小泉武栄の諸氏にお礼申し上げます。【報告：苅谷】

8月8日 駒ヶ岳ロープウェイ千畳敷駅前に集合。千畳敷園谷を俯瞰しながら極楽平園谷を主稜線（島田娘）まで登る。
主稜線西側に広がる周水河斜面を下り、三沢岳（園谷）を眼前に置きながら昼食。周辺部にみえる3つの小規模園谷について、それらと化石周水河斜面の切り合い関係について、三沢岳北東にある凹地の成因についてなど、一通りの説明が青木氏よりある。これに対し、参加者からは賛否さまざまな意見が出され予定時間をオーバーするくらいだった。

宝剣岳の鎖場を経由して（一部の人は千畳敷まわりで）、幕营地——木曾駒本岳の南——まで帰る。夕食後、満天の星を眺めつつ議論に花が咲く。

8月9日 雲海の上に突きだして、富士が、御岳が、槍が、朝焼けに光る。
8時には天場を発ち、まず中岳へ登る。ここから南北両側のながめを楽しみつつ、ハイマツ、高山植生や周水河地形に関する小泉・中新田両氏の解説をきく。
天場を経由して谷底まで戻り、ハイマツ群落に実際にわけ入って球果とその生産について中新田氏から解説を受ける。さらに原 芳生氏によって報ぜられたストーン・ペープメントやネオグラシエーション期に形成された階状土（小泉・関）を観察した。最後に天場西側の風衝地をおとずれ、そこで見られる微地形のほか人為インパクトによって加速した侵食の様子などを見た（小泉氏から風食に関する研究の重要性が強調される）。

12時、事故などもなく、今年度の夏の学校は無事終了する。

[参加者：小泉武栄、中新田育子、青木賢人、清水長正、田中艸太郎、吉田直隆、岩船昌起、田口登志江、新保貴子、山口史枝、山田ひかる、三枝 茂、遠藤泰弘、清水俊文、目代邦康、内藤大助、苅谷愛彦 以上17名]



2. 11月例会のお知らせ

11月例会を下記の要領で開催します。澤口氏からは、北上川上流域の化石周氷河現象（埋没したロープやインポリューションなど）と最終氷期の古環境についてお話いただきます。また小林氏には赤石山地で調査された卒業研究の成果をお話いただきます。会員各位、ふるってご参加下さい。

日 時：11月9日（土）、15：00～、明治大学大学院棟（駿河台）
会場は当日、院棟玄関に掲示します。

◎例会が予定時間に開始できるよう、皆様のご協力をお願いします。

演 者：澤口晋一（明大・学振研究員）「北上川上流域における最終氷期後半の化石周氷河現象」
小林政能（千葉大・院）「赤石山地南部の線状凹地の分布と形態」

3. 上高地自然史研究会10月集会のお知らせ

同会の集会が下記の要領で開かれます。今回は人文分野を中心とした内容です。

日 時：10月5日（土）、15：00～、明治大学大学院棟（駿河台）

演 者：山田晴通（松本商短大）「上高地：人文地理的考察への手がかり」

勝島信夫（東京法規出版編集部）「若者の行動とその心理～上高地について考える～」

問合せ：岩船昌起（東北大・院） 022-222-1800 [内3466]

4. その他

①新入会員（7-9月）

・田口登志江（山形大・地科・院）

・村岡明子（千葉大・地学・学）

・西田正生（古今書院）

②今年度名簿の訂正について

同封別紙をご覧のうえ、恐れ入りますが各自で訂正下さいますようお願いいたします。

また、誤記のためにご迷惑をおかけいたしましたこととお詫びいたします。

